

授業改善書

科目名	日本思想史
担当者	杉山亮

授業の概要

古代から幕末に至るまでの思想を概説した。時代ごとに書籍を中心に、歴史的背景と著者の生涯、書籍の内容を解説した。書籍の選定は『山川倫理用語集』によった。講義ごとにレジュメを作成・配布し、内容を解説した。同時にコメントペーパーを配布し、講義ごとに質問や感想を募集した。集めたコメントの内、講義の進展に資すると思われるものは次回講義で紹介した。

授業の問題点

1 回ごとのレジュメ・配布資料の分量が多くなり、配布時に学生が混乱することがあった。講義中もレジュメの内容を全て紹介しようとするあまり、早口になってしまい、学生から理解が追いつかないとの声があった。
また、講義に進める際、講壇から一方的に話しかけることに終始したため、学生がレジュメを眺めるか、ノートを取るかに終始してしまい、集中力を切らしてしまうことがあった。さらに、授業アンケートによれば、復習した学生は 3.48 と平均を下回っており、学生の復習意欲を喚起できなかった。

学生の授業満足度

コメントペーパーを活用したことから、講義への参加意欲は上昇したと思われる。講義中、発言や質問をしたと答えた学生は 3.52 と平均を上回り、ノートを取ったと回答した学生も 4.36 と平均を上回った。教員は学生の質問に答えたと回答した学生も 4.64 と平均を上回った。また、毎回の講義冒頭で講義のあらましを述べたことから、講義内容や進度について明確だったとの評価を受けたと思われる。シラバスに掲示された内容に沿っていると回答した学生は 4.48 と平均を上回った。しかし、配布資料の適否に関する回答は 4.36 と平均を下回っている。講義内容に関心を持てたと回答した学生が 4.48 と平均を上回ったにも関わらず、全体の満足度が 4.2 と平均を下回ったのは、配布資料に関する不満が影響していると思われる。

授業改善の課題と方策

授業アンケートからもうかがえるように、配布資料の改善が急務である。分量を縮小する。見やすいようページ番号を振る、重要箇所はフォントを変えるなど、一目で理解できるようにする工夫が求められる。
また、学生の集中力を保つべく、講義中に学生の意思表示を伴うやり取りが必要である。コロナ感染防止の観点から、簡単なディスカッションなど学生間の発話を伴う意思表示の導入は難しいが、挙手でのアンケートなどの発話を伴わない意思表示を各講義 1 回は組み込むことで、学生の集中力と関心を維持する必要がある。

その他